馬耳東風

総務省は，昨年10月1日現在の人口推計について，外国人を含めた日本の総人口は1億2,380万人で前年よりも55万人減少したと発表した．また，新生児の誕生も70万人を割り，われら団塊の世代が269万人であったころと比べほぼ1/4となっている．日本は人口減を伴う少子高齢化社会となって久しい．選挙では必ず少子高齢化に関する公約が叫ばれるが，なかなか効果的な施策がとられたと聞こえてこない．ただ，かつて子どもに関する所管が文部科学省，厚生労働省，財務省，内閣府，警察庁などさまざまな省庁に分かれ縦割り行政になっていたものが，令和5年に子ども家庭庁を創設し，一本化を図ったのは一つの朗報である．今後，具体的な成果を出してくれることを期待したい．

さて，平成11年以来，人口減少・少子高齢化等の社会経済情勢の変化に対応し，地方分権の担い手となる自治体にふさわしい財政基盤を確立する目的で，全国的に市町村合併が推進され，平成の大合併と称された．それまでにあった3,232の市町村数は現在では1,718（うち村は183）となっている．

今回，北陸3県で唯一の村である富山県舟橋村を紹介する．舟橋村の面積は3.47 km^2で日本一小さな村である．富山市中心部まで車で20分，電車なら富山駅まで15分という便利な位置にある．一般的には富山市と合併する方が好都合と考えられるが，村としての存続を選んで現在にいたっている．そしてこの日本一小さな村が人口を倍増させたとして「奇跡の村・舟橋」と呼ばれるようになった．人口が平成初めの1,400人から3,242人（令和2年現在）と増加し，人口増加率全国2位，15歳未満の年少人口割合全国1位を経験した村である．日本一小さな村の人口がなぜ倍増したのだろうか？

昭和45年には舟橋村は全域が市街化調整区域に指定され，宅地開発等ができない状況であった．昭和56年に就任した松田村長が国や県に粘り強く働きかけ，昭和63年に市街化調整区域からの除外が実現した．この除外は全国初のことであった．早速，村営の住宅団地を造ると，予想以上の人気となり，追加の造成，民間デベロッパーの参入と続いた．富山市への通勤が便利で，土地が安く，ファミリー層の流入で人口は急増した．

村内には観光名所はなく，産業も米中心の農業しかないが，子育てや教育を充実させることで子育て世帯の転入を図ったのである．村役場の3階にある子育て支援センター「ぶらんこ」は，子育ての情報や悩みを共有できる場となっている．利用登録者は村内ばかりでなく村外の人も多く，子育てに優しい村を象徴している施設である．

村役場の周りには保育園，小学校，中学校があり，子どもたちは中学校卒業までずっと仲間と一緒に過ごす．平成10年には駅舎と一体化した村立の図書館が作られた．村民の8割以上が利用し，また利用登録者の8割が村外の人という人気の図書館である．駅舎と一体という利便さだけでなく，職員は笑顔を絶やさず，子どもたちやお年寄りの名前を覚えていてさりげなく話しかけるなどの気配りがあり，居心地日本一の図書館を目指しているからであろう．平成20年図書館正面の自動ドアからカモシカが入ってきたことでも有名となり，村が予算を組み「カモシカとしょかん」という絵本を作ったとのこと．

なお，村役場や図書館は靴を脱いで入る決まりで，和やかな雰囲気がうかがわれ，さすが住みたいと思う村である．（平）